

令和7年度学校経営計画に対する最終評価報告書

石川県立工業高等学校

重点目標	具体的取組	主担当	達成度判断基準	分析(結果と課題)及び次年度の扱い(改善策等)
1 一人一台端末の活用も含め、常に指導の工夫・改善を継続することにより、生徒の主体的・対話的で深い学びの実現に向け、思考力、判断力、及び実社会で求められるコミュニケーション能力の育成を図るとともに、厳密で公平な学習成果の評価を行う。	① 県工学びのスタンダードと「R80」を活用し、かつ学校研究の成果の拡充・継承を目標とすることにより、創意工夫されたわかりやすい授業を実践する。	教務課 各教科	「Chromebook を活用した意見交換や記述を求める授業」や「県工 Thinking time」、「R80」などを通して、根拠をもとに論理的に発言したり、記述したりすることができるようになったと回答する生徒の割合で判断する。 A 75%以上 B 65%～75%未満 C 55%～65%未満 D 55%未満	(教務課・各教科)最終評価(A) 「当てはまる」「やや当てはまる」と答えた生徒の割合が82%であった。ほぼ全ての授業で、ペア学習、グループ学習を積極的に行えるようになり、前年度に引き続き生徒の思考力・表現力を高める授業が行えたことが要因と考えられる。 また、Chromebook を活用した、授業の内容理解度を把握する確認テストの実施や授業の振り返りとしてのR80も生徒にかなり浸透してきていると感じられる。プレゼンテーションをさせたりする取り組みも多く見られた。ただ18%の生徒が否定的な回答をしているため、今後さらにChromebook の利活用を研究し、授業のねらいに向けて効果的に言語活動等を行うことにより、生徒の思考力・判断力・表現力を高めていきたい。
	② 教師個人及び各教科にて積極的に主体的・対話的で深い学びを取り入れた授業改善に取り組むことで、学習の定着を実現する。	教務課 各教科	予習・復習及び課題や資格取得に向けた学習等に取り組むことができたかどうかを、生徒対象の学校評価アンケートの肯定的評価の割合で判断する。[継続] A 85%以上 B 75%～85%未満 C 65%～75%未満 D 65%未満	(教務課・各教科)最終評価(B) 「当てはまる」「やや当てはまる」と答えた生徒の割合が83%であり、前年度に比べ2ポイント減少した。生徒の多くは進路やさらには将来目標を定め、継続的に学習に励んでいると考えられるが、資格取得等に向けての取り組みは積極的であるにもかかわらず、教科の予習・復習に関する家庭学習については、評価は依然としてあまり高くない。これらのことが定期考査の取り組み姿勢にも顕著に表れ、欠点科目取得者の人数も多い。成績不振者に関しては、教科担当や担任からの指導、学校全体としては、放課後補習期間を設け学習の取り組み姿勢や教科指導を行っている。継続した取り組みではあるが、学ぶ場と時間を与え環境を整えた形で、今後も実施していく。もっと多くの生徒がより積極的に学習に取り組めるよう授業や課題の設定及び環境の改善も進めていきたい。
	③ 授業の情報化推進の一環として、ICT機器の活用を促進し、学力の定着が実感できる授業を目指す。	学習情報課	1人1台端末の活用等により授業が工夫されていると回答する生徒の割合で判断する。[継続] A 70%以上 B 60%～70%未満 C 50%～60%未満 D 50%未満	(学習情報課)最終評価(B) 「先生は1人1台端末を効果的に活用した授業をしている」という問いに対して「当てはまる」、「やや当てはまる」と回答した生徒は69.7%であり、昨年同様B評価となった。しかし、数値は昨年度の67.4%と比較して2.4ポイント上昇している。社会のICT化の進展に伴い以前は、生徒のICTに対する意識や機器の使い方と教員のそれとの間にギャップが生じていたが、ICTを使う学習と、実際の学力の向上や生徒の満足感との間の差が減少していると考えられる。今後さらに検証を重ね、授業公開や研修を通して、学力の向上につながり、より満足感の得られる活用法を探っていきたい。
学校関係者評価委員会の評価	<ul style="list-style-type: none"> ・1人1台端末の活用について、端末などのICT機器を机の上において使用すると、従来の机の大きさでは小さいのではないかと。 ・また、机を大きくするのであれば、35人学級にして教室内のスペースを確保するなどできないかと。 ・降雪時等に学校が休校になった場合など、端末を使つてのリモート授業などできないかと。 			
学校関係者評価委員会の評価を踏まえた今後の改善策	<ul style="list-style-type: none"> ・ICT機器を利用するために専用の机があればよいと考えるが、現実的には難しいので、本校の教員はそうした部分を工夫しながら授業をしている。 ・35人学級の実現については教委に伝えていきたい。 ・端末を家に持ち帰つてのリモート授業については今後検討していきたい。 			

重点目標	具体的取組	主担当	達成度判断基準	分析（結果と課題）及び次年度の扱い（改善策等）
2 規範意識やマナーの向上を図る取り組みを通して、地域を担う職業人として高い意識を備えた生徒を育成する。	① 校訓を掲げることにより、共通の理念のもと、一人ひとりの生徒の愛校心や帰属意識等、精神力を高め、将来の職業人に相応しい、規範意識や基本的な生活習慣を身につけた生徒を育成する。	生徒指導課 各学年	日頃、生徒がしっかりと挨拶を行っているかどうかを、教師対象の学校評価アンケートの肯定的評価の割合で判断する。[継続] A 85%以上 B 65%～85%未満 C 45%～65%未満 D 45%未満 遅刻者数（実人数）減少の割合で判断する。[継続] A 前年比10%以上の減少 B 前年比5%～10%未満の減少 C 前年比0%～5%未満の減少 D 前年比増	（生徒指導課・各学年）最終評価（B） 「あなたは、日頃生徒がしっかりと挨拶を行っていると思いますか」という問いに対して、「当てはまる」、「やや当てはまる」の合計が78%となり評価はBである。昨年度に比べ11ポイント減少した。生徒または保護者の評価は90%を超えていることから、学校全体で挨拶を日常的に行っていることがわかる。今後も挨拶の大切さをあらゆる機会でも指導するとともに、教員からの挨拶をより高いレベルで実践しながら指導を継続し、自らしっかりと挨拶できる自己肯定感の高い生徒を育てていきたい。
	工場見学やインターンシップに参加することで職業人としての誇りとともに、安全管理を含めた高い規範意識を持ち、新時代の工業技術者としての基礎技能と実践力を育てる。	進路指導課	課題の提出期限の遵守及び課題の品質向上に積極的に取り組んだかどうかで判断する。[新規] A 80%以上 B 70%～80%未満 C 60%～70%未満 D 60%未満生	（進路指導課）最終評価（A） インターンシップの事後アンケートにおいて、課題の品質向上のため積極的に質問するようになったなど、就業体験から課題の提出に対する責任感が向上したといった感想が多かった。実際に工場などで勤務し、製品づくりをすることで品質向上と責任感を学ぶことで、自分たちの課題や作品について責任をもって取り組む姿勢が培われたと思われる。
	② 交通ルール等の遵守など、社会の一員としての自覚を高める。	生徒指導課 学年団	違反指導件数（累計）減少の割合で判断する。[継続] A 前年比10%以上の減少 B 前年比5%～10%未満の減少 C 前年比0%～5%未満の減少 D 前年比増	（生徒指導課・学年団）最終評価（D） 本校の違反件数は100件（昨年度77件）と昨年度より増加した。本校では、自転車マナー検定の全校生徒実施、グッドマナーキャンペーンの実施に加えて個別に交通安全指導を行っている。2026年4月からの道路交通法改正に向けて、金沢中署から安全講習会を実施していただいた。違反の多数が放課後の下校時間帯であり、違反の半数が「並進」である。安全な通学路への変更や交通ルールの遵守等、自身の規範意識を醸成する指導を継続して実施していきたい。
	③ いじめの早期発見・早期対応に向け、気になる情報についてはすみやかに共有し、組織的な対応を行う。	生徒指導課 全職員	教員相互の頻繁な情報交換により、問題を未然に防ぐことができていると思うかについて、教師対象の学校評価アンケートの肯定的評価の割合で判断する。[継続] A 90%以上 B 80%～90%未満 C 70%～80%未満 D 70%未満	（生徒指導課・全職員）最終評価（A） 肯定的な回答をした教員が100%でした。教員側の認識としては、情報交換は十分にできているということがうかがえる。アンテナを高くし、授業等の行動・言動にも注意を払い、早期に問題の発見に繋がられるようにしている。生徒に対しても、機会ある毎にいじめは許されないことを伝え、生徒からのサインを見逃すことなく今後とも教員相互が風通しのよい状態を構築し組織的に対応していく。
学校関係者評価委員会の評価	<ul style="list-style-type: none"> ・挨拶について、学校の外で県立工業の運動部の生徒が練習しているところを通りかかったところ、生徒全員が大きな声で挨拶してくれた。こんなあいさつする学校はないなと感動している。 ・遅刻については、どんなに技術があっても信頼を失ってしまうことにつながる。 ・自転車の交通違反青切符（罰金）制度で、検挙されると今度から罰金が科せられることから、PTAや各家庭でも指導するが、学校でも啓発用ポスターを作るなど、対応できないか。 ・キックボードの使用法について、一般的に法律が浸透また、自転車より認識されていないことから生徒が使用することに不安を感じる。 			
学校関係者評価委員会の評価を踏まえた今後の改善策	<ul style="list-style-type: none"> ・転車の交通違反青切符（罰金）制度は、一定の交通違反を抑止する効果があると考えている。 ・学校でも中警察署より警察官の方に来ていただき、罰金制度を踏まえた交通マナー指導を行っていただいた。今後も警察と連携して交通マナーについて指導していきたい。 ・キックボードについて本校では昨年度、キックボードによる登下校は「禁止」としている。 			

重点目標	具体的取組	主担当	達成度判断基準	分析(結果と課題)及び次年度の扱い(改善策等)
3 専門的技術の習得をはじめ、資格取得や検定、コンテストに意欲的に取り組み、確かな進路実現を図る。	① 就職希望者が100%内定するとともに、第1社目受験での進路実現を図る。	進路指導課3年学年団	就職希望者が1社目受験で内定した割合で判断する。 [継続] A 90%以上 B 85%～90%未満 C 80%～85%未満 D 80%未満	進路指導課・3年学年団 最終評価 (A) 1社目の試験を182名受験し6名が不採用であり、内定した割合は96.7%(昨年93%)であった。内定率は向上したものの、面接試験で会社への理解が乏しい、協調性が低い生徒が不採用となっている。生徒には今後も継続して企業研究、他者の意見を受け入れ、自分の考えや意見を伝えられる力を各学科・課と連携し育成を図りたい。
	② 生徒の将来に役立つよう資格取得指導に積極的に取り組む。	工業7学科 教務課	認定者数(特別表彰+ゴールド+シルバー)で判断する。 [継続] A 70名以上 B 60名～70名未満 C 50名～60名未満 D 50名未満	(工業7学科・教務課)最終評価 (B) 1月末時点での認定予定者は、特別表彰4名、ゴールド30名、シルバー33名の67名の予定である。昨年度最終認定者は、特別表彰が1名、ゴールド16名、シルバー9名の26名であったため、合計人数はかなり増加した。また特別表彰者が4名と難易度の高い資格を取得した生徒も増加した。資格取得は目的ではないが、先生方の指導があったことが増加につながったと考えられる。専門科目の深い学びにつなげるためのモチベーションアップになることには間違いない。また就職する企業によっては取得している資格によって手当てが付くこともあるため、そのような情報も生徒へ提供していきたい。
	③ 全国レベルの各種コンテスト・コンクールにおいて上位入賞を目指す。	工業7学科	[地区予選を経て、全国大会出場となる競技や大会]の場合は、大会出場の難易度で判断する。[継続] A 全国大会でベスト16以上の成績であった B 全国大会に出場した C ブロック大会で入賞した D 県大会で入賞した [地区予選がなく、直接全国大会出場となる競技や大会]の場合は、出場した全国大会の成績で判断する。[継続] A 全国大会でベスト8以上の成績であった B 全国大会でベスト16以上の成績であった C 全国大会で初戦突破した D 全国大会に出場した ----- 各種コンテスト、コンクールの難易度で判断する。 [継続] A 全国レベルのコンテスト等で入賞 B 全国レベルのコンテスト等で入選 C 県レベルのコンテスト等で入賞 D 県レベルのコンテスト等で入選	[地区予選を経て、全国大会出場となる競技や大会](工業7学科) 最終評価 (A) ○機械システム科 (A) ・第25回高校生ものづくりコンテスト旋盤作業部門石川県大会1位(北信越大会出場) ・第25回高校生ものづくりコンテスト旋盤作業部門北信越大会1位(全国大会出場) ・ジャパンマイコンカーラリー2026 北信越大会 Camera Class 北信越学校代表(全国大会出場) [地区予選がなく、直接全国大会出場となる競技や大会](工業7学科) 最終評価 (A) ○機械システム科 (A) ・第31回全国ソーラーラジコンカーコンテスト2025 in 白山1位3位 [各種コンテスト、コンクール](工業7学科) 最終評価 (A) ○工芸科 (A) ・令和7年度環境月間ポスターコンクール 優秀賞 入選 ・令和7年度愛鳥週間ポスターコンクール 最優秀賞 優良賞 ・第38回いしかわ県民陶芸展 石川県教育委員会賞 文教会館理事長賞 ・第52回石川県デザイン展 学生部門 第2部 金賞 銀賞 銅賞 ・令和7年度環境月間ポスターコンクール 優秀 ○テキスタイル工学科 (A) ・文化服装学院主催「第8回全国高校生ファッションデザイン画コンテスト2025」佳作 ・神戸ファッション専門学校主催「第27回全国高校生デザイン画コンクール」優秀賞 ・いしかわファッションフェスタ2025小学生・中学生・高校生によるデザイン画コンクール ・石川県繊維協会会長賞 石川県知事賞 金沢商工会議所会頭賞 石川県教育委員会賞 ○デザイン科 (A) ・環境月間ポスター 最優秀賞 優秀賞 入選愛鳥週間ポスター 優良賞 ・全国理容美容学生技術大会 信越北陸地区大会ヘアデザイン画部門 優秀賞 敢闘賞 ・令和7年度国土地緑化運動・育樹運動ポスター原画 コンクール 準特選 入選 ・令和7年度明るい選挙啓発ポスター(石川県) 金賞 銀賞 銅賞 佳作 ・令和7年度 明るい選挙啓発ポスター 文部科学大臣賞、総務大臣賞

<p>学校関係者評価委員会の評価</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・資格試験については、生徒たちは資格の取得を目指し一生懸命に取り組んでいると思う。 ・ソーラーラジコンカーコンテストなど、全国レベルでの活躍がとてすごいと思う。 ・資格試験や各種コンテストについてどのような指導をしているのか。
<p>学校関係者評価委員会の評価を踏まえた今後の改善策</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・資格取得については、生徒たちが意欲を持ち、努力して勉強することもあるが、生徒の資格取得に向けて指導する先生は、実際に指導する資格または、上位の資格を取得するなど、常に自己研鑽に努めながら放課後の時間を使って熱心に指導している。 ・各種コンテストの指導については、生徒と教員が日々ものづくりについて切磋琢磨しながら完成度を高めている。 ・生徒たちは自ら試行錯誤し、ものづくりに取り組む力がつくように指導している。

重点目標	具体的取組	主担当	達成度判断基準	分析(結果と課題)及び次年度の扱い(改善策等)
<p>4 学校行事や部活動等を通して、たくましい心と体を培うとともに、周囲と協働して取り組む意識を高め、社会性の向上を図る。</p>	<p>① 活発な部活動を通して、加入率と成果の更なる向上に努める。</p>	<p>生徒会課</p>	<p>部・同好会活動に意欲的に取り組んでいるかどうかを生徒対象の学校評価アンケートの肯定的評価の割合で判断する。[継続]</p> <p>Ⓐ 80%以上 B 70%～80%未満 C 60%～70%未満 D 60%未満</p> <p>県総体の成績等で判断する。(個人・団体あわせて) [継続]</p> <p>A 全国大会5部以上出場または総体順位男子2位以内 B 全国大会3部以上出場または総体順位男子4位以内 Ⓒ 全国大会1部以上出場または総体順位男子6位以内 D 総体順位男子6位以下</p>	<p>(生徒会課) 最終評価 (A)</p> <p>学校評価アンケートにおいて、意欲的に活動に取り組んでいる生徒数は88%で、昨年度より10ポイント増加した。忙しい中、部活動に足を運んでくださる顧問の先生方が、日頃より努力されている中、昨年度より増加したことは、部活動を指導する上でかなりの励みになると思われる。今後も顧問の先生にはご苦勞をおかけするが、今後も継続した取り組みをお願いしたい。 また、担任や顧問を通して再入部や転部を進めていきたい。</p>
	<p>② 学校行事に積極的に取り組む姿勢を大切に、協調性や責任感など豊かな生徒の育成を図る。</p>	<p>生徒会課</p>	<p>保護者の目から見て生徒が学校の行事に満足していると回答する割合で判断する。[継続]</p> <p>A 95%以上 Ⓑ 85%～95%未満 C 75%～85%未満 D 75%未満</p>	<p>(生徒会課) (B)</p> <p>肯定的に回答した合計が、生徒96%、保護者93%であった。学校行事では、保護者の参加を認めているのだが、感染症予防等のため人数制限を設けたりしているとその分評価が伸びなかったのかもしれない。今後も生徒が積極的に取り組めるようにしていきたい。特に、生徒会の各種委員会の活動場を増やし、より魅力ある学校行事にしていきたい。</p>
	<p>③ 健康診断の事後処理の指導を強化し、健康な生活を営むことができる能力の育成に努める。</p>	<p>保健課</p>	<p>視力検査・歯科受診済の生徒の割合で判断する。[継続]</p> <p>Ⓐ 65%以上 B 55%～65%未満 C 45%～55%未満 D 45%未満</p>	<p>(保健課) 最終評価 (A)</p> <p>1 月末の集計結果は、視力受診率 68.4%、歯科受診率 74.1%であり、保健指導の充実や個別指導により受診率が向上したと考えられる。高校生にとって「健康的な生活を送る」ことは軽視されがちだが、生涯の健康を保つためには不可欠である。そのため、健康管理能力の育成を目指して、健康について興味関心を持つことができるように活動の充実を図りたいと考える。</p>

<p>学校関係者評価委員会の評価</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・中学校では、部活動が地域移行になっている。高校ではどのように運営するのが心配である。 ・高校で旋盤を勉強した生徒が本学に入学してくれると他の学生の指導も行ってくれるといったことがある。その指導を見ていると、専門教科を勉強してきたゆえのことなのか、褒めてよいところ伸ばす指導法であり、今後もこのような生徒を育てる指導を高校で続けて欲しい。
<p>学校関係者評価委員会の評価を踏まえた今後の改善策</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・高校では、従来通り部活動は行われている。生徒たちにとって部活動は大きなエネルギーとなり、充実した学校生活を送っている。 ・本校では、運動部、文化部に生徒たちは積極的に加入し頑張っている。 ・生徒たちは、教室での授業や実習さらには学校生活全般を通してものづくりの精神を勉強し世の中に必要とされる生徒を目標に育てているところであり、今後も指導を続けていきたい。

重点目標	具体的取組	主担当	達成度判断基準	分析（結果と課題）及び次年度の扱い（改善策等）
<p>5 学校として、業務負担の平準化を意識する共通認識のもと、組織的に風通しよく効率的な業務遂行に努める。</p>	<p>① 校務分掌ごとに業務の重複を点検し整理に努めることで、多忙化を改善する。</p>	<p>各科・学年・各課</p>	<p>教員が学校で設定した定時退校日を守れている回数の平均で判断する。[継続]</p> <p>A 12回 B 10～11回 C 8～9回 D 7回未満</p>	<p>（各科・学年・各課）最終評価（C）</p> <p>全教員の平均は、9.1回であった。昨年度より0.9ポイント上昇したが、抱えている業務により個人差があることが考えられ、当日の呼びかけ等、定時退校できる雰囲気作りができていたとの評価も多い。特定の教員に業務が集中する状況があるようであるが、業務分担を推進しているがなかなか解決しにくい部分がある。歴史のある学校で業務等も多いが、さらに業務内容の点検を行い、負担を軽減していけるように努めていきたい。Teams等の活用を推進し、定時退校への意識をさらに進めていきたいと考える。</p>
<p>学校関係者評価委員会の評価</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・多忙化を改善するためには、DXを教職員に浸透させる必要があるのではないか。 ・ICT機器の使用法を工夫し、情報共有が容易にすることで、業務の軽減を図ることを検討するべきではないか。 ・定時退校日は月に何回ありますか。職員を提示で帰宅させるには管理職が率先して定時に帰宅することが重要と考える。 			
<p>学校関係者評価委員会の評価を踏まえた今後の改善策</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・金沢工業大学ではその方法が浸透し多忙化の改善につながっていることを参考にして本校でも検討したい。 ・定時退校日は、月に2回あり、教職員にとって帰りやすい雰囲気であると認識しているが、仕事の特性上、定時ぴったりに帰宅するのは難しい。 ・以前よりは、早く帰宅する雰囲気が定着しており、年次有給休暇などについても取りやすい環境になっている。 			